

# 2018年度 事業報告書

2018年6月1日から2019年5月31日まで

特定非営利活動法人 チャリティーサンタ

## 1 事業の成果

### 2018年を振り返って

2018年は未曾有の大災害が起きた年でもありました。

岡山、広島、愛媛を中心に起きた7月豪雨災害をはじめ、地震・台風などによる全国的に災害の多い年となり、多くの子どもたちが体験などが不足する環境となりました。

また、7人に1人が子どもの貧困の中にある中で、体験の格差が生まれています。

そして今もなお、東日本大震災後の原発事故の影響を受け、自然体験に不安を感じている家庭・児童がいます。

困難の種類は異なりますが、どの課題にも「子ども時代にあるべき体験」の不足があります。

このような「特別な思い出」「体験の格差」をなくしていくために、すべての困難な環境に関係なく、すべての子どもたちに心に残る思い出を届けるために働きかけた1年となりました。

### (1) 西日本豪雨に対しての働きかけ

#### 被災地にサンタクロースを

災害は日常の中で突然起こり、生活を一変させるものです。その災害で、住まいや仕事、生活に困りごとを抱えたり、日常の生活を取り戻すために大きな労力が必要とされます。

災害の影響で生活の中にストレスを抱え、環境の変化の中ががんばってきた子ども達に、一年の最後にサンタクロースから「がんばったね」と伝えてあげたい。2018年は災害も来たけど、サンタクロースも来た！と、2018年をHAPPYに締めくくり、子どもたちに一生の思い出に残る体験を届けたい。NPO法人チャリティーサンタでは、これまで大きな災害があった時には、対象となる家庭・子どもたちには無償で「サンタクロースとの特別な思い出」を贈ってきました。（東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨など）

2018年も、クリスマスに「サンタクロースの思い出」を無償でプレゼントしたいと準備を進め、結果881名の子ども達に思い出とプレゼントを届けることができました。

#### みなし仮設にも。サンタクロースだからできる可能性

災害が起き、住まいに被害を受け、自らの資力では住居が確保できない方に対して、行政が民間の賃貸住宅を借り上げ無償提供するものを「みなし住宅」といいます。

在宅避難や仮設住宅では顔見知りがいったり、住民同士の関わり合いが自然と生み出されますが、みなし仮設は住まいもバラバラするため、状況が見えづらい課題があります。

今回は、みなし仮設住宅にも家庭にも思い出を届けることができました。「こどもの貧困」の時と同様、「つながりにくいおうちに直接届ける」ことができました。しかし、「こどもの貧困」と同様、その家庭への継続的な情報提供や繋がりへの支援はまだ難しい状況にあり、今後の改善課題と捉えています。

### (2) 「こどもの貧困」に向けての連携強化

困難な家庭へのアプローチを強化するために、2018年は様々な連携を行いました。

こどもの貧困は対象が多いにもかかわらず、解決に関われない（関わり方がわからない）ケースも多く、アプローチの拡大だけでなく、社会参画の拡大（企業連携）も強化して実施しました。

#### 社会福祉協議会との連携

通常の支部活動（支部設立）ではなく、パートナー団体として契約を結び、連携をしました。連携団体の受益者に対し、チャリティーサンタの仕組みを使っていただき、受益者に対して支援を届ける制度です。現在は、今回の社会福祉協議会のように福祉を担っている団体とをパートナーシップ連携を行うことで、従来のチャリティーサンタでは対応できなかった層への働きかけの強化をめざしています。

今年は、鳥取県にある倉吉市社会福祉協議会とパートナーシップを結び、団体の関わる受益者に働きかけることができました。

### **企業連携の強化**

チャリティーサンタでは企業の「子どもたちのために」を形にするお手伝いをしています。2017年から始まった絵本を寄付用に購入する取組「Book santa」は大きく拡大。2018年度は22都府県200書店で、実施することができました。

また、全国に店舗をもつベーカリーのアンデルセンでは、64店舗で寄付つき商品販売（特定商品の売上1%が寄付）が行われ、新しい寄付の形となりました。同じように、大阪イセタン[ルクアイーレ]にて、寄付つき商品販売（売上全額が寄付）といったように自分たちの市場を通じて、子どもたちに働きかける取り組みを行っています。

次年度はさらに多くの企業が参加できるよう、様々な形で働きかけていきます。

## **（3）必要とされる福島での「子どもの経験」**

前年度におけるチャリティー事業の寄付により、東日本大震災後に外遊びのしづらい福島県の子どもたちを対象に「生きる力を育む」をテーマとしたツアーを継続実施しました。

対象となる家庭からは「未だにある放射能への不安」や「子ども達の経験」に対しての必要性の声があがっており、風化しつつある東日本大震災に目を向け続ける必要性を感じ、今後も働きかけていきます。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
チャリティーイベントに関する企画運営事業	クリスマスイブにサンタクロースが訪問するチャリティー企画を運営実施	(準備) 通年 (本番) 12月24日	全国23都道府県30地域	約400名	訪問家庭数：1,369軒 訪問児童数：5,500名 ※施設なども含む ボランティア数：1,754名 (内、厳しい環境の中にいる子どもへのサンタクロース訪問 対象となった子どもの数：1127人／訪問家庭数：251軒)
チャリティーグッズに関する企画運営事業	サンタクロースから手紙が届くチャリティーグッズ販売	(準備) 通年 (実施) 11月～12月	東京都	10名	購入人数：439名 (内、厳しい環境の中にいる子どもへ無償提供：164名)
チャリティーグッズに関する企画運営事業	ネパールで作ったフェルトマスコット販売	(準備) 通年 (実施) 11月～12月	東京都	10名	購入人数：約300名
子どもの体験活動支援事業	福島の子ども達を招いての「生きる力」を育むツアーの実施	・岡山 8月8日～13日 ・山梨 8月14日～17日 ・広島 8月18日～22日	岡山県、山梨県、広島県	約60名	子どもの参加人数：30名
子どもの体験活動支援事業	各地域で子どもの遊びや体験を促すイベントを実施	通年	神奈川県 湘南地域、沖縄県、岡山県	約50名	子どもの参加人数：約40名
スタディーツアー事業	実施なし	-	-	-	-
市民の社会参画の機会提供及び推進を図るための企画運営事業	ボランティア参加や社会参加を促すための講演会の開催等	通年	全国	3名	受講者：約2,000名
調査研究、情報収集、情報提供及び啓発事業	実施なし	-	-	-	-